

四日市市立山手中学校 3年 道福 夏希 「未来を紡ぐ想いの輪」

百五十年という長い年月が流れる中で、三重の景色は大きく姿を変えてきた。しかし、はるか昔に「美し国」とも称された所以である雄大な自然は変わらず存在しており、今もお三重を訪れた人々に感動と衝撃を与え続けている。一方で、そんな長く大切に守られてきた自然は、少しずつ失われている。私は、この自然を次代に繋ぐにはどうすれば良いのかを常々考えてきたが、長い間、その答えを見いだせずにいた。

中学二年生の時、ふと目に留まった河野清掃ボランティア活動の張り紙が気になり、好奇心のまま活動に参加した。正直、それほど多くの人は集まらないだろうと思っていた。地縁の薄弱化や人間関係の希薄化が叫ばれる現代において、ボランティア活動に積極的な人は多くはないと考えていたからだ。しかし、清掃には私の予想よりもずっと多くの人が集まっていた。そして、その場にいる誰もが笑顔で、泥にまみれる作業さえも楽しんでいるように見えた。私には、その光景がなんだかとても大切で、かけがえのないもののようには思えた。これほど多くの人がこの地域を心から愛していて、「地域の自然を守りたい」と思っている。そう思うと、私も地域の自然を守るために何か行動したいという衝動に駆られ、自然と清掃の手にも力が入った。地域愛こそが、自然のみならず地域全体を守る上で最も大切であると確信した瞬間だった。

この経験を経て、私はボランティア活動や催しに積極的に参加するようにしている。かつて「美し国」と呼ばれたこの地の自然を、自分たちの手で守り、次代へと繋いでいきたいと思うからだ。目指すのは、誰もが三重を心から愛し、誇りを持って「三重のために何かしたい」と思える場所。そして、いま私が抱えているような想いが連鎖し大きな輪となって、三重の魅力を守ることに繋がっていく、そんな未来を形にしていきたいと私は思う。